

むすめ

娘たちよ

■ 楽曲データ

歌詞：米村竜治 作詞

楽曲：岩代浩一 作曲

発表：熊本教区仏教婦人会連盟 1983年

初演：—

初出：—

管理番号：M0125

■ 創作の経緯

熊本教区仏教婦人会連盟の制作。作詞、作曲とも、熊本県出身者に委嘱。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第6巻収録

底資料：『浄土の音楽集成 仏教讃歌5 明日への讃歌』同朋舎出版 1994年

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

1983（昭和58）年、熊本教区仏教婦人連盟で制作されました。作詞者と作曲者も、共に熊本県の出身です。作詞者の故・米村竜治さんは、本願寺派の僧侶で、民衆と仏教についての研究者でもありました。作曲者は、故・岩代浩一さんです。

◆ 楽曲について

人生には、時に辛く、苦しいこともある。けれども、それをそのままに受け入れ、掌を合わせ歩もうと、この曲は語りかけています。新たな一步を踏み出す娘に向け、母から贈られる歌として、結婚式などで歌われる機会も多い楽曲です。また、「娘たちよ」と歌うとき、私たちも同じように温かく見守られ、歩んできたことを思い出すのではないのでしょうか。「み光りのその中に歩いて行こう」——いかなるときも、そこには仏さまの存在が確かに感じられます。母として、娘として、そして仏さまの子どもとしてある私たち。慈しみのところを大切に、世代を超えて歌っていきたい仏教讃歌です。

◆ 演奏のヒント

主に中低音域を用いた旋律は、落ち着きがあり、何度でも口ずさみたくなるような味わい深いものです。この曲は、裏の拍から始まるリズムが特徴的に用いられています。冒頭のように、表の拍に歌詞がない場合、発声のタイミングが

遅れてしまいがちです。表の拍を感じながら、歌ってみてください。また、14小節目からの「掌を合わせ掌を合わせ」は、言葉がきちんと伝わるよう、2回目の「て」を大事に歌いましょう。その後、再度あらわれる冒頭のメロディーは、それぞれの想いを込めて歌っていただきたいと思います。

解説執筆：田村菜々子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第225号収録）を加筆・修正の上、転載。

Copyright : Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.